

# 学力研の広場

2024. 7. 6

学 力 研 発 行

常任委員長 岸本ひとみ

郵便振替 00920-9-319769

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

## 「聞く」は、相手を大切にすること

「この頃、子どもたちは話聞けへんなぁ」。これは職員室で交わされる常套句です。家庭環境の影響だと言う人もいる。確かにそういう面はあるだろうけれど、それだけを原因にしてしまったら、私たち教師は責任逃れをしているに過ぎないと思うんですよね。(中略)

「聞く」という経験をしていない子どもは、聞くことが苦手です。家の中で怒鳴り合う声やののしる言葉が飛び交っていたら、聞くどころか耳も心もふさいでしまいますよね。教室でも「先生が話を聞け聞けとうるさいから、聞いてやろうか」と耳を傾けたところへ、「早くしなさい」、「分かりましたか」とか、怒鳴る声しか届かなかったら、「二度と聞くものか」となってしまうかねません。(中略)

「聞くことは相手を大切にすること。ひいては自分が大切にされることです」。時間がかかって回り道になっても、あきらめず私は繰り返し繰り返しこの言葉を子どもたちに伝えます。

松森俊尚「街角の共育学—無関心でない、あきらめない、他人まかせにしないために」(2020.8 株式会社現代書館)

1学期も残りわずかとなりました。夏休みに入る前に一度、ご自身の学級をふり返ってみてください。そのときに今月の特集記事が先生方のお役に立てれば幸いです。(李)

## CONTENTS

### ◇特集「1学期のしめくり」◇

テストで「できるかも!」を増やす  
学級開きの原点に立ち戻る  
夏休み前だからこそ できること

加藤英介・・・2  
丸小野聡暢・・・4  
堀井克也・・・6

### ◇連載◇

「どの子ども伸ばす」を本気で考える連載 69「意欲格差」に負けない! 公立小学校へ考える力をつけるための授業の組み立て方⑩動画視聴と気付きの発表で授業を組み立てる 社会科(歴史)授業力アップ講座 ⑩ 教材研究⑥

岡本美穂・・・8  
荒井賢一・・・10  
深澤英雄・・・13

局長・常任委員長だより  
学力研カレンダー

・・・15  
・・・16

※久保先生の連載は、都合により休載させていただきます。

三ヶ月の振り返り

教室から出てしまう子、フードを被って寝ている子、暴言を吐いてしまう子ども、教室には様々な問題を抱える児童が多くいる。ただ、過ごす中で気付いたことは、子どもたち自身は、最初の授業はある程度聞いてくれたり、参加してくれたりとやる気が多少あることだった。つまり「できないからやりたくない。傷つきたくない。だから出ていく。」ということなのだと感じた。

そこで、ことあるごとに「失敗しても大丈夫。失敗して学んでいこう」というメッセージを伝えることにした。また、学校に来る目的や何のために授業を受けるのか、一年間でどんな自分になりたいのかなど、今まで何となく過ごしてきたことに対し、改めて考える機会を設けた。話の最初や最後には、今日の主役を何人か決めてよかったことやよかった瞬間を取り上げるようにした。周りの友達にそ

の行動についてどう思うかを尋ねたり、あなたならどうするかを聞いたりして、一人のよさをみんなのよさにつなげていった。実際に、掃除で頑張っている子が、いた日のことを紹介する。

「みなさんは、掃除って必要だと思いますか。どうしてそう思うの。なるほどね。今日、〇〇さんがどうやって掃除していたか知っている人はいますか。〇〇さんは黙って一生懸命、時間いっぱいまで掃除をしていました。これは、今日に限ったことではありません。毎日毎日しています。みんなもわかるよね。どう思いますか。『汚いからきれいにする』って言葉は誰でも言うことができます。でも実際に動ける人はそんなにいません。だけど、〇〇さんは言葉ではなく行動で示してくれています。すてきなことです。ね。実は、その行動を見て、〇〇さんも最近同じように黙って動き始めました。〇〇さんも〇〇さんもよくなってきました。

先生が見ていないだけで他にもがんばっている人もいます。今日は、誰が輝いてくれるのか楽しみにしています。そして、いつも掃除をしてくれてありがとうございます。」

このように、たった5分程度の時間を一週間のうちに何度かつくる。なるべく全員の頑張る瞬間を切り取りながら、何気ない毎日を心に残る毎日にしていく。教師が俯瞰して全体を見ることによって、一人ひとりの可能性を引き出し、悪い点で目立つのではなく良い点で目立ちたいと思えるよう仕掛けていく。とはいっても、結果はすぐには出てこない。教師がやればやるほど遠ざかってしまうときもある。だから、焦りは禁物である。失敗して当たり前。うまくいかなくて当たり前。もし、うまくいったらラッキー。そんな心構えで接している。

あるとき、男の子が授業後に「先生、どうしたら満点取れる？がんばっても取れないからどうしたらとれるかなあって…どうせ無理だけどさ」と聞いてきた。この瞬間に満点が取れる授業構成に変え

ようと決め、実践をすることにした。

テストを意識した学習

「満点を取りたい」という思いはどの子も必ずもっている。そのために教師は、教科書を使いながら丁寧に授業を進めたり、復習プリントやドリルを用意したりして、日々奮闘していることだろう。自分もその一人だ。授業では「楽しい！分かった！」という声が聞こえる一方で、テストとなると途端にできなくなる。この原因は、「分かったつもりになっている」「テストの解き方に慣れていない」ことがテストの結果から見えてきた。

次の日から、授業の始めと終わりにミニテストを設定した。内容は、計算ドリルの内容やテストの中から3問程度出題する。3問のうち2問は前回と同じ問題にしておく。これにより、解くスピードも上がり自信をもって取り組むことができる。毎時間同様のパターンで続けていく。同じ問題と違う問題を混ぜることによって、安心して挑戦することができる。

テスト返却のとき子どもから「点数上が

った！」「やったあ。満点だ！」という声が聞こえてきた。そんな中、五十点だった子が「もう一回できますか？」と聞いてきた。理由を聞くと「満点を取りたいから」と教えてくれた。その言葉を聞いていた何人かで、休み時間にテスト勉強、再テストし、満点のテストに大満足していた。その喜びは、担任だけでなく学年の先生や教頭先生にまで伝えていたくらいである。

この子は去年まで、教室の中に入らなかつたり、授業妨害をしたりと周りや折り合いをつけることが難しかった。それが、たった一回のテストで変わる。たった一枚のテストで成長するのである。「やらされる」から「やりたい」へと気持ちを変えていくためには、教師の後押しが必要である。また「できた」という経験をいかに積ませるかも大切である。最初は、自分の力でなくても、誰かの力を借りてきたらよい。その経験を積み重ねることにより「ぼくなんて、できない」から「ぼくだったら、できるかも」に変化し「ぼくなら、できる」という自信が生まれていく。そして、いつの

まにか自分で満点を取ることができるのである。

あと一ヶ月

一学期も残すところあと少し。テストは結果が全てである。しかしながら、結果が出なければだめかと言えはそうではない。前回よりもどのくらい上がったのか、どこが伸びたのかという成長過程も大切なことである。満点ではなくても、そこまでの努力は認めるべきであり、教師にしか見つけられない成長過程を伝えることも、その子の自信につながる一つとして有効である。これは、他の授業や授業以外の場面でも同じことが言える。あいさつや学習準備、係や当番の仕事、友達への接し方など、何気なく過ぎてしまう日常の中に、輝く瞬間はいくつもある。小さな出来事を見つけて、伝えて、つなげて、広げていく。すると、最初は嫌がっていたことが、好きかもという感情に変わり、違和感しかなかったことが達成感へと変わっていくのである。あと三週間、駆け抜けていきましょう。

# 学級開きの原点に立ち戻る

丸小野 聡暢

## 一学期の学級づくりについて振り返る

夏休みまで残り1ヶ月となりましたが、現在の先生方の学級はどうでしょうか。毎年、4月に学級開きについて考えると、今年も4月も同じように考えたのではないのでしょうか。この時期だからこそ、学級づくりについて振り返り、2学期に必要なことがあります。私も4月の「学力研の広場」で学級開きや学年目標の設定について書かせてもらいました。現在の学級の様子を振り返りたいと思います。

## 学級開きに大切にしたいこと

お互いが尊重し合って学校生活を送れた』『男女の仲が良く、協力して一丸となって行事に取り組めた』『一年間、このクラスで良かった』『同じクラスになったことがない人がほとんどで不安だったけど、一年間とても楽しかった』『積極的に関わって仲良くなるうとしていた』『誰かが失

敗したときも誰も責めないで、男女関係なく助け合ったり協力したりできた』これらの感想は、昨年度の私のクラスの最後の日の子どもの言葉です。4月に大切なことは、一年後に「どのような子どもに育ってほしいか」「どのようなクラスになってほしいか」と教師が一年後の子どもたちの姿を思い描くことです。私であれば「自治的なクラスになってほしい」「友達を大切にする子どもに育ってほしい」と思っています。なぜ、教師の願いが必要なのか。それは、教師の願いが、普段の教師の子どもたちへの声掛けや一貫性をもった指導へつながるからです。また、私が初日に心がけていることは、子どもたちに「安心感」を与えることです。子どもたちに「このクラスなら一年間やっていけそう」「このクラスなら居場所がありそうだな」と感じてもらえたら学級開きは成功です。そう感じてもらう

には、初日の教師の言動が大切です。安心感を与えるために必要なことは「丁寧さ」です。学級開きという何か特別なことをしようと考えがちですが、そうではなく、ブレない一年間のスタートをきることで、よくありがちな失敗は、学級開きに仕込みすぎたことをして、だんだんと子どもたちの期待を裏切ることです。期待とは、最初は面白くて優しい先生だったのに…面白くない、いつも怒っている…とならないことです。そうではなく、自分に背伸びすることなく誠実に子どもと向き合うことが大切です。また、一年を通して大事なことは「信頼」を得ることです。信頼なくして学級経営は成り立ちません。指導の時に、何を言うかではなく、誰が言うかが子どもにとっては大きいのです。こんな経験はありませんか。同じことを言っているはずなのに、あの先生の話は聞くのに、私の話は聞いてくれない…。この違いは、先生に対して信頼があるかの問題です。

## 学級開きから三ヶ月

現在、私の学級は子どもたち同士がつながりつつ、みんなが助け合いながら学習や

生活をすることができています。また、私と子どもたちの間にも信頼関係ができてきたように思います。最初の1ヶ月は、どの学級もうまくいっていたのに、その後学級で差がでてくるのはなぜでしょうか。それは、安心と信頼につながる教師の一貫性が確立されているかどうかの違いです。ひと昔前までは、教師という身分が信頼のブランドでしたが、今はそうではありませんので、信頼を獲得していかなければいけません。信頼を獲得するために、約束を守る、誠実に対応するなど不信感を抱かせない言動はしないように気をつける必要があります。よくありがちなことは、同じマイナス行動をとっても子どもによって指導を変えないことです。指導したりしなかったり、ある特定の子には厳しく指導したりと教師の態度に子どもたちは敏感です。しかし、普段は、特に難しいことをする必要はありません。毎日、少しの時間でもいいので子どもたちに関心をもち、話をしたり笑ったり、心から楽しむ時間をつくることです。私は、朝の準備の時間に、宿題を提出する子どもにも名前呼びかけ、あいさつやたわ

いのない会話をします。クラス一人一人と関わる時間を大切にしています。

また、私は自治的なクラスになってもいいかと思っています。では、そのために自治的になるような声かけを日常的に意識して行っているかということです。自治というと係活動を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、普段の授業から行えます。「みんなはどう思う?」「みんなはどうしたらいいと思う?」子どもたちに考えさせて、選択したり判断したりしながら授業や学級生活を手直してできる場面をたくさん用意しているかということです。また、1学期はしっかりと教え、自分たちでできることを増やしていきます。最初は、なかなか上手いかず時間がかかることも多いですが、自分たちで気付き、考えて行動できるようにするまで待ちます。しっかりと土台作りが2学期以降に自治的な集団につながっていきます。友達を大切にすることも育てる場合も同じです。どの場面でもそうですが、私は、「一貫性、傾聴、笑顔、厳しさ、ユーモア」を大切にしながら声かけをしていきます。

## 学年(学級)目標の設定

4月に設定した学年(学級)目標が、そのまま、飾り物になっていませんか。設定した目標は、常に自分たちの姿を振り返る視点にならなければいけません。今年度、5年生の担任をしています。学年目標は、「飛躍(飛び)考え・動き・認め合う」です。この目標には、6年生になったときに全学校のリーダーとして、羽ばたいてもらいたいという思いがこもっています。そのために、

今年度は、6年生への準備期間として力を蓄える一年間、だという位置づけを子どもたちと共有しています。毎月、自分たちにはどのような力が付いたのか、個人とクラスで振り返りを行っています。一人一人に成長を実感させることが大切です。振り返るときに、先生が具体的なエピソードを話すようにと思います。

8月は全国フォーラムがありますのでぜひ、学級づくりや授業づくりについて語り合いましょ。

4月 人のことを考える力  
みんなの夢を思い思い、話し終わってからは、みんなを励ましてあげよう。

5月 6年生がいよいよ日曜日  
そうじ、リーダーシップを身に付けながら、自分もしっかりと頑張ろう。

6月 5分短時間活動の力  
友達と協力して、自分たちで大きなことを成し遂げよう。

7月 リーダー力  
リーダーシップを身に付けながら、自分もしっかりと頑張ろう。

8月 飛躍(飛び)考え・動き・認め合う  
みんなの夢を思い思い、話し終わってからは、みんなを励ましてあげよう。

9月 飛躍(飛び)考え・動き・認め合う  
みんなの夢を思い思い、話し終わってからは、みんなを励ましてあげよう。

10月 飛躍(飛び)考え・動き・認め合う  
みんなの夢を思い思い、話し終わってからは、みんなを励ましてあげよう。

11月 飛躍(飛び)考え・動き・認め合う  
みんなの夢を思い思い、話し終わってからは、みんなを励ましてあげよう。

12月 飛躍(飛び)考え・動き・認め合う  
みんなの夢を思い思い、話し終わってからは、みんなを励ましてあげよう。

## 夏休み前だからこそ できること

春日井学力研 堀井 克也

この一学期、例年になく疲れたというか、自分が教師として停滞している感覚に苛まれ続けました。最大の原因は、教員不足による多忙さ（五年生担任で空き時間が週に二時間しかないことが大半でした）なのだと思います。単に時間が無いというだけでなく、価値あることに力を注ぎていないというもどかしさがありました。

しかし、そんな中でも子どもたちは運動会、二泊三日に戻った野外学習を乗り越えて、毎日楽しくたくましく過ごしてくれています。学級が荒れやすい六月も気がつけば乗り切っていました。これは偏に学力研で学んできた学力の基礎を鍛える実践を粘り強く続けてきたことや、子どもたちが心地よさを感じながら生活できるように配慮してきたことが大きいのだと思っています。学ぶこと、そしてそれを実践することの大切さを、改めて実感しています。

この原稿を読んで下さっている皆さんも、それぞれに大変な一学期を過ごされてきたのではないかと思います。そんな一学期も気がつけば残りわずか。最後をどう締めくくるか、少し立ち止まって考えてみたいと思います。

### 『ヨイ出し』で自信を育てる

まず取り組みたいのは、みんなで一学期をふり返ることで、できるようになったことやがんばったことに注目させ、自分に自信をもてるようにすることです。日本の子どもの自己肯定感が低いと、様々な調査をもとに昨今よく言われています。私のクラス（五年生）にも、自分に自信がもてないように見える子が何人もいます。それゆえに、「これからどんな自分になりたいですか?」という問いに対し、「自分を認められる自分になりたい」と答えてくれた子もいて、とても印象に残りました。自分に自信

をもてるようになれば、新しいことに挑戦する勇気につながりますし、少し嫌なことがあってもたくましく乗り越えていく力が湧きやすくなると思います。

記憶だけを頼りに長かった一学期をふり返るのは難しいので、材料が必要です。私のクラスでしたら、毎日書き綴ってきた「成長ノート」やロイロノートに提出した日々の学習報告、私が発行した学級通信などがふり返りの良い材料になりそうです。各教科のノートを見返すのも良いと思います。

ただ、これらの材料をもとに一学期をふり返ったとしても、子どもが自分で自分の良かったところを見つけて認めたり、自信をもったりするというのはなかなか難しいだろうと思います。そこで、クラスの仲間や教師の支援が必要になります。私はポツドキャストを聞くのが好きなのですが、第五回ジャパンポッドキャストアワードというイベントで大賞を取ったのが『子育てのラジオ ティーチャーティーチャー』という番組でした。気になったので少しずつ聞いているのですが、その中で『ヨイ出し』なる手法が紹介されていました。これは「ダ

メ出し」の反対という意味で命名されたもので、対話している相手の良いところを見つけてとにかく褒めて認める、というものです。実際にヨイ出しをしているのを聞いてみると、これはリフレーミングに近いのかな？と感じました。語感も良いので気に入って、子どもにも紹介してみました。そして、おとなりさんとのペアトークの際にやってみたのです。どの子どももすぐに上手く…とはいきませんでした。上手な子はいるので、ヨイ出しされた方はとてもうれしそうな様子でした。

これを、今回のふり返りの際にも行おうと思います。自分で自分を褒めたり認めたりするのは恥ずかしい高学年でも、仲間から褒めてもらい認めてもらうのはうれしいと思います。もちろん教師も参加します。子どもたちの中には目立つ子も目立たない子もいますから、みんながヨイ出ししてもらって自信をもてるように、予めこちらで全員のヨイ出しをする準備をしておきます。そして、「そういうえば、〇〇さんは運動会の表現の練習で、何かをすごくがんばっていたよね。」とヒントを出すつもりです。

### 夏休みを見ずえて習慣づくりを意識する

もう一つ取り組みたいというか、すでに取り組んでいるのが、「習慣の大切さ」を伝えた上で、夏休みまでに望ましい習慣づくりに挑戦させることです。というのも、夏休みを楽しみながら充実したものにできるか、ドラドラと過ぎて終わった後に後悔するようなものにしてしまうかは、どれだけ良い習慣を身に付けているかの差なのではないかと考えているのです。するとある日、成長ノートにこんなことを書いている男の子がいました。

「五年生になつてから、毎日リコーダーを練習しようと言われたので、毎日必ず十五分は練習してきました。四年生の三学期にはどこをおさえたらどの音が出るのかもわからなかつたのですが、今は好きなアニメの曲を最初から最後まで吹けるようになりました。だから、まだリコーダーの練習をしていない人には、ぜひがんばってほしいと伝えたいです。ぼくも、これからもっと練習をがんばります。」

正に「習慣の大切さ」が表現されていたので、活用させてもらいました。まず、習

慣に関する名言の一部を伏せて提示し、空欄を予想させた後に全文を紹介しました。

その上で彼の記述を読み上げると、聞いていた子どもたちから「すごい」「続けるって大切なんだ」というつぶやきがありました。

「今のみんなは、どんな習慣を身に付けているかな？」と問うとたくさん出てきたので全て板書して、これから夏休みまでの期間に、どんな習慣を身に付けたいかを考えてロイロノートで提出させました。内容は様々でしたが、クラスの仲間の頑張りから刺激を受けていることが伝わりました。

これをそのまま子どもも任せにしておいては差が出るだけなので、朝の会のペアトークなどで適宜ふり返って経過を報告し合います。こうすることで、がんばろうと思っただけど忘れてしまった子が、思い出して再びスタートを切る機会を作ります。

どちらも、夏休み前だからこそできる取り組みなのではないかなと思います。授業も終わらせないと…と焦りはありますが、価値があると思える実践に、しっかり取り組んで締めくくりしたいと思います。

## 「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

◆大きな問いを投げると、子供たちは多様な意見を出してくれる

現在私は国語の学力向上に向けて、国語を中心にしながら全学年、全学級に関わり、担任の先生と一緒に、国語を土台にした授業づくりを考えています。学校としては、「伝え合う力でつながろう」という研究テーマで実践研究を進めてきており、国語で「話す」「聞く」「読む」「書く」力を育むのですが、そこで育んだ力をすべての教育活動の中で発揮していくわけです。それは各教科等はもちろんのこと、例えば特活の委員会活動や学級活動などでも発揮していきます。そしてまた、各活動で発揮した力を改めて国語でも生かし、さらに力を育むという往還的なサイクルを大事にしています。

今回紹介するのは昨年度、担任していた5年生のクラスで行った、「大造じいさん

とがん」の単元の授業です。これは12時間の単元の7時間目で、3場面後半の大造じいさんについて考えていった授業です。

この授業では、まず前時のふり返しを行った後、本時に考えていく3場面後半を音読するのですが、ペアで1文ずつ交互に読んでいきました。実はこの単元の学習では毎時間、私が最初に「この場面の大造じいさんはどうですか？」と発問していたのです。そのため、子供たちは一文ずつ音読をしながら、互いの読みを確認するだけでなく、本文に線を引いたり、ノートにメモを取ったりしながら読み進めていました。

そこから、学習の「めあて」である3場面後半の大造じいさんについて考えていきます。前時までと同様に、「この場面の大造じいさんはどうですか？」と問いを投げると、子供たちからは事前に準備をしてお

り、多様な気付きや疑問が出されてきます。ちなみに授業での発問について、「発問が大きいと答えられないから、小さな（より具体的で答えやすい）問いを投げなければならぬ」と言う人もいます。しかし、私の学級では年度当初から、「みんなの意見が学級を良くするんだよ」ということを繰り返し伝えており、そのため大きな問いを投げると、国語が得意な子供だけに限らず、子供たちは多様な意見を出してくるのです。そうやって多様な意見を出せるようにしていくことで、国語が苦手な子も参加しやすくなるし、多様な視点からの意見を通して多面的・多角的な対話ができるようになるのだと思います。

ここでは、それぞれの気付きや疑問を出してくれたわけですが、その中で、大造じいさんが「変化している」という意見は必ず出るだろうと予想していました。実際に、そうした意見が出てきたのを受けて、その大造じいさんの変化について、全体で交流をしていきます。すると「変化している」だけでなく、「強く心を打たれている」とか、「いい人になった」とか「大造じいさ



んが手をのばして…」などの意見が出てきました。

ここで出てきた意見を受ける形で、「手をのばすとは？」と、思考を深めるための発問をします。すると、「捕まえようとして手をのばしたのではない」や「残雪との距離を縮めたいと思った」、さらには「残雪の堂々たる態度に心を動かされた」などの意見が出てきました。それらの意見を受ける形で、「助ける」「守る」「混乱」など、出てきたキーワードを板書し、対話の過程を整理していきました。

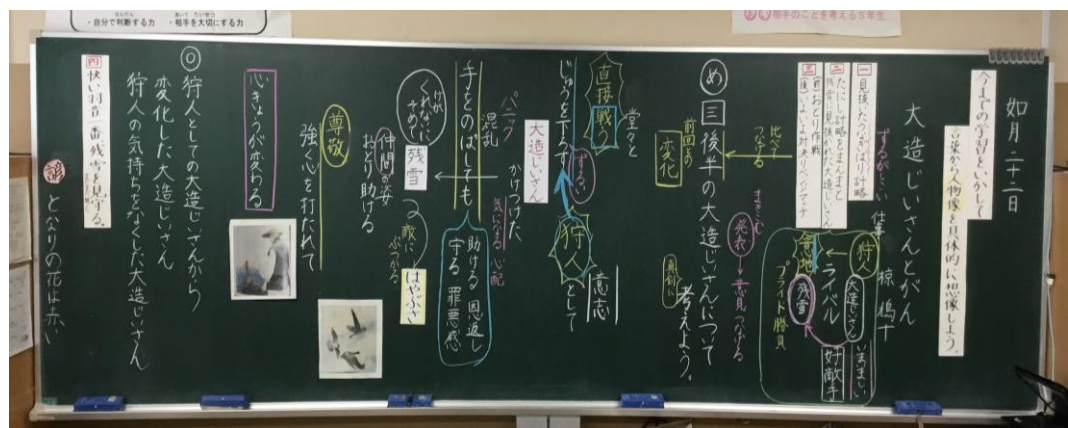
こうした読みと対話の過程を通して、多様な意見を出していった後で、この授業の最後の場面で、「めあて」に対する、それぞれの考えをふり返りとして書いていきます。すると、子供たちは板書に残る対話の過程や友達の見解も参考にしながら、自分の考えを、自分なりの言葉で豊かに書くことができていました。

### ◆子供たちの喜びは、「学びに向かう力」につながる大切な情動

私自身、気を付けてはいても、国語の授業ではついつい意見を盛んに言う子供にばかり注目してしまうこともあります。しかし、めざすべき授業とは、授業中に意見を言わなかった子供も、友達の見解を聞いたおかげで違う発見をしたり、新たな学びを得たりして、思わずノートに自分の意見を書きたくなるような授業なのではないかと思うのです。

また国語は言葉を対象にしている教科である以上、読みの深さももちろん大切なことではあります。しかし、それと同時に「みんなといっしょに読み合えた!」「話し合えた!」「考えて書けた!」という子供たちの喜びは、「学びに向かう力」につながる大切な情動だと思いますし、そういう気持ちも大切にしたいと考えて授業づくりをしています。

ただし、ただ「楽しかった」というだけに終始しては教科の学習とは言えません。だからこそ、しっかりと教材研究を行うことが大切です。単元や授業を通して育む資質・能力を明確にすることがとても重要なのです。



## 考える力をつけるための授業の組み立て方①

大阪教育サークルはやし 荒井 賢一

### 動画視聴と気付きの発表で授業を組み立てる

「Out of Sight」というアニメが、ユーチューブにアップされている。

台湾芸術大学の学生3人が卒業制作として作った5分28秒のアニメである。

主人公は、犬を連れた盲目の女の子。肩に提げたバックをひったくられる。

犬はそのひったくりを追いかけていき、その犬を探しに、全盲の女の子は知らない町を歩くのである。

暗闇の中で女の子は、足にあたった小枝を拾う。その小枝でさわることで、暗闇の中に様々なものが現れてくる。女の子にとって、小枝は魔法のステッキとなったのである。

#### 代行と「Out of Sight」の授業

代行で四年生の学級に入ることになった。多くの場合、自習課題が準備されていて、代行に入る教員は、子どもたちを見守りながら、自分の仕事をする。

ただ、そのクラスは、教員の休みが三日以上続き、子どもたちもあきあきしている

感じが見受けられた。

そこで総合の授業をさせてもらうことにした。その頃、四年生は、アイマスク体験をしていたので、「Out of Sight」を扱うのがちょうどよかったのである。

#### 動画授業の組み立て方

授業の組み立ては、非常にシンプルだ。まずは動画を黙って視聴させる。

「気がついたことがあっても、言ってはいけません。」

次は、もう一度、動画を観せながら、気付いたことを箇条書きさせていく。

例は子どもには言わせなくて、私が「①女の子が出てきた」と板書した。

子どもに発言させると、「女の子は目が見えない」を言う可能性があるからだ。

でもそれはもったいないです。なぜなら、「女の子は目が見えない」ことにまだ気付いていない子もいるからだ。（自分で気付くことが大事なのである。）

気付きは、①②とナンバリングさせながら、書かせていく。

この時、評価基準を子どもたちに示す。

「四年生なら四個書けたら、合格です。」

考える力をつけるためには、まず量が書けることが前提だ。最初に質を求めると量が減るので、量を求めるのである。

二回目の動画視聴後、何個書けたかを聞くと、全員が四個以上書けていた。一番多い子で12個だった。

10個書けている子からノートを持ってこさせ、私が指定した番号の気付きを板書させていった。

#### 【板書された全員の気付き】

- ① いぬは、もうどうけん
- ② 音やしよっかんやにおいですすんでいた。
- ③ かばんをひったくられた。
- ④ あなから風が、ふいた。
- ⑤ ステッキでたたくと建物が見えた。
- ⑥ つえをふったらいろいろ出てきた
- ⑦ ココの声が聞こえる。
- ⑧ クジラが飛んでいた。
- ⑨ 家がどんだんたっている。
- ⑩ ひこうきかと思っただけクジラ
- ⑪ つえでたたくとみちがみえる。
- ⑫ 女の子は、目が見えない。
- ⑬ 目が見えないからびっくりすることもあ

る。

⑭家のうつるかがみがあった。

⑮音をたよりにして歩いてた。

⑯女の子の服がまほうつかいみたいになっ  
た。

⑰ごみ箱の上にねこがいた。

⑱穴の中に犬が入った。

⑲首から桜が生えてる人がいた。

⑳いぬがカバンをとりもどしてもとのせか  
いにもどった。

21ほしのぼうがきゆうに木のぼうにかわ  
った。

22くるまがでてきた。

23おじいさんがいた

24きづけばさかなの町

25大人には女の子がみえてなさそう

26ステッキでかべをさわっていちをかく  
にんする

教師が気付きを選ぶ基準は、他の子が書  
かないような気付き、全員で検討したい気  
付き、面白い気付きなど。数秒で選ぶので、  
適当なところもある。

⑦のココは、女の子が連れていた犬の名  
前。女の子は、基本、「ココ！」しか言わ  
ない。すれちがう大人を頼ったりしない。

25に、大人は女の子が見えてない、とい  
うか関心がないような行動をとっている。

これは、大人には女の子が全旨の子だと分  
かってないからだろう。

⑫の「女の子は、目が見えない」がどこ  
で分かるか発表させていった。

最初に、女の子が点字ブロックの上を歩  
いたり、ぶつかった壁の穴を風で感じて気  
付いたり、壁を木の棒でさわりながら歩い  
たり、たくさんの場面、女の子の目が見  
えないことに気付けるのである。

そのほか、「首から上が花びら（桜）に  
なっている女の子」や「空飛ぶクジラ」な  
どの謎を子どもたちと話し合って、この動  
画を読み解いていった。

最後に、もう一度、動画を流した。  
ここでようやく女の子が目に見えないこ  
とや、女の子の行動の意味によりやく気付  
く子もいただろう。

残りの時間で、ノートにふりかえりを書  
かせて、授業終了。

「動画視聴↓動画視聴しながら気付きを  
書く↓気付きの板書と発表↓謎解き↓動画  
視聴↓ふりかえり」というシンプルな組み  
立ての授業である。

### 【子どもたちの授業のふりかえり】

① 目が見えない人は、音やさわってかく  
にんすることが分かった。例えばガラ  
スをさわってから、分かったり、ねこ

のなき声でねこということが分かった、  
このじゆぎょうでわかった。目が見え  
ない人は大変ということがわかった。

② 女の子は、そうぞうしながら歩いて目  
がふじゆうな人は、ど力しているんだ  
なと思いました。

③ 自分がみちのせかいにはいると、まっ  
くらだけどさわってたしかめて、やっ  
とせかいをした。女の子がすばらし  
いはっそうでそうぞうでせかいをつく  
るのがすごいと思いました。

④ 目が見えない人は、てんじブロックの  
上をあるくんだなおもった。目が見  
えない人がこまっていたら、助けてあ  
げる。こまっていたら、その人の話をき  
く。

⑤ 女の子は、目が不自由じゃなくても後  
ろからバックを取られたりすることが  
あるから、自分も、注意しようと思  
いました。

⑥ 目が見えない人は、びっくりすること  
もあるとしたのしいときもあることをし  
れたし目が見えない人は自由な世界を  
つくりあげているんだなと思いました。

目が見えないことは大変なことだけれ  
ど、見えないからこそ、想像の翼を広げる  
こともできるのである。

教材研究⑥

学力研究常任委員 深沢 英雄

一、授業のすすめ方（続き）

教師：宿題（予習）でここになにかあるとみつけてくれた人がいました。いい気づきをしてくれましたね。

（予習で問いをもち、それが分かると、また新たな問いが生まれます。それが学習力につながります。子どもたちの予習してきた内容をすべて授業の中で扱うことは無理ですが、重要な視点の部分を教師が捉えて、授業の流れの中で入れていくことで、予習することで先生がとりあげてくれ位置づけてくれたと子ども達に示すことが大切です。学習意欲が増します。）

教師：ここで大王をほうむるぎしき（そうしき）が行われます。祭祀といいますが（パワポを見せる）高さは 35メートルということ、まわりは田や川の自然豊かなところに、周りにビルはない。ここに石があります**葺石**といえます。周りには埴輪

（はいわ）と言われるもの。教科書の65ページみてください。こんな形をしてもものや、筒のような**埴輪**を古墳にかざった。

教師：これは、**周りの人々にも**

子どもみえる。そこでなくなった大王にわかって、次の大王がひきつぎの儀式をします。だからこの部分は平らなんです。

教師：みなさんの疑問にこういうのがありました。「**古墳づくりはどれぐらいの日数がかかったのだろう。**」教科書にこう書いていますね。「人の力だけでつくるとのべ680万7000人の人手を15年8か月の工事期間、約796億円かかる」（これは大林組の試算で、本も出版されています）**そうですよ。なぜこんなに大きな墓をつくったのだろうね。**  
教師：年表でいうと この古墳は中期一番大きな古墳がつけられた時代です。5世紀**みんなは古墳づくりのようすを見ていろいろ**

**ろな疑問をだしてくれました。すごいです。**大仙古墳は、海の近くにありますが。海からも陸からも目立ちます。周りに「**見せるため古墳**」と考えられています。（子どもの疑問にある「何のために古墳をつくったのか」をいうことへの一つに答えます。古墳をつくる目的はこれだけではありません。）（ここから少しずつ古墳の本質に向かうための発問を入れていきます）

教師：このような巨大な墓をつくることのできたのか？どんな力が必要ですか  
3つの力を考えてほしい。○○力。○○な力

班で考えて、ホワイトボードに書いてください（ここでグループワークをいれます。時間をとります 3分間時間をとって、発表したホワイトボードをはります。）  
発表 1班 黒板にはる

（子どもなりの言葉を子どもと対話しながら、まとめていきます。）**強大な力（権力）**  
**労働力（働く人の力）**。**作る技術力（土木技術）**。

教師：古墳を作っている、季節は、いつですか 班で考えてください。理由が言える

班は言ってください

これまで学習した弥生時代や5年生の社会科で学んだことを頭にいれて 班で考えてください。2分間。古墳づくりのために働いた人たち、いつもどんな暮らしをしていたのかな？

子ども1班 2班

教師：正解は冬なんです 秋の終わりからといっていいかも

教師：はつきりとした証拠は見つかっていませんが、研究者の先生は、普段は農作業をしていた。農閑期、つまり稲の刈り取りが終わったあとに古墳づくりをするようです。古墳を作る時には、食べ物などをもらうこともでき、自分たちがつくった稲をへらすことがなくなる。何人かの人が気づき、疑問のところに書いてくれました。男の人ばかりだけど、女の人、子どもはどうしたのだろう。とってもいいところに気づきましたね、すごい。これは想像図なので、働いている人は裸ですが、裸だったのではないかと想像して書いています。これからの研究で違うようになるかもしれません。ある研究者は、男性だけでなく 女性 子

供も石を運んだり、他の仕事をしたりして協力したのではないかと考えています。

(と教師が説明をします。)

この後、授業はつづくのですが、この模擬授業を受けた、現職の先生で大学院にきている先生の感想を紹介します。

二、深澤先生の実践の「楽しさ」はどこからくるのか？

「私は、楽しさの由来は「今、ここ」で追体験できる喜びだと思いました。古墳時代であれば千年以上前、元寇も800年以上前の出来事です。それを身近なものと比べたり、実際に触れたりすることで、「今、ここ」にいながら、当時を追体験することができました。全国の古墳がコンピニの数よりも多いなんて言われると、近所のコンピニを古墳に置き換えて想像できます。すると急に古墳が身近に感じられるから不思議です。数もイメージしやすくなります。元寇の際の「てつはう」の大きさ、防壁の高さ、実際に示してもらったことで、急に当時の様子が、目の前にありと立ち現れてくる気がしました。抽象的なのは歴史の学習でありながら、「今、ここ」で追体験できる面白さ、これが歴史の世界に引き込まれる、

1つの入り口であったと感じました。

次に感じる入り口が、だれもが安心して参加できる「資料を読む」という活動を通して全員を当事者にしてくれる入り口です。

深澤先生の授業には、資料を読み込む楽しさがあります。これは、深澤先生の学習の特徴でもあると思います。教科書資料では小さくて見落していたものも、大きく拡大して手元で確認させてもらうと見えてきました。「資料を見るってこんなに楽しいものだったのか」と資料を読む楽しさに、深澤先生のおかげで気付くことができました。資料について子供たちから寄せられる気づきを基に授業を展開されていくのも、子供の立場でとてもわくわくする経験でした。「そうそう！私も気になっていた」と感じながら、深澤先生は次にどんなことを話されるのだろう、と期待している自分がいきました。誰もが参加しやすい「資料を読む」を入り口にしてきているので、いつの間にか「なんでやる？」「これ、何やる？」と疑問を持つことができます。自分の疑問がもてるということは、もう主体的な学びのスタートを切っているということですよ。つまり、深澤先生の学習には、児童の主体性を引き出すしかけがある、と言い換えることができるのではないのでしょうか。

# 局長だより 7月

## ◇学力研最新情報 岸本ひとみ

### ●期末事務終了、そして夏休みへ

みなさんがこれを読んでおられるのは、ちょうど期末事務が終わって、夏休みの計画を立てておられ頃ではないでしょうか。私の勤務地域では、ここ数年で通知簿の所見を書かない学校が増えていきます。保護者面談を代わりに実施します。

それも、夏休み前に面談があるので、その場で子どもどうしのトラブルや困りごとの相談が出てくると、夏休みに入る前に解決の糸口まではたどり着けます。夏休みに入って面談だと、この糸口が見つけられず、結局こじれてしまって2学期を迎えることになってしまいます。

面談のための準備は早くしないといけないので、大変な面もありますが、子どもたちのことや保護者の心配事を考えると、夏休み前それも、7月10日前後に設定することが望ましいです。

### ●1学期のふりかえりを

そして、もうひとつ。忘れてはいけないのが、1学期の成果と課題をまとめることです。それも、自分のクラスのことだけでなく、校務分掌、行事、学年団の取り組み、など、良かった点と改善点をまとめて、2学期以降に生かすという視点が大切です。

クラスのこと、子どものことについては、いろいろ検討されますが、校務分掌や学年団のことになると、前年度を踏襲して消化してしまつたというのが1学期だと思います。

でも、子どもたちの実態が正確に把握できている今の状態だからこそ、前年度とは違う視点が求められるのです。2学期以降が充実したものになるかどうかは、この夏休みにかかっています。

他の地域、学校、の実践事例を学ぶチャンスと想着て、ぜひ夏の全国フォーラムにご参加下さい。  
※詳細は下記です。

## ◇事務局だより 岡本 美穂

### ●学力研・家庭塾連絡会

#### 第65回 全国フォーラム

テーマ

学力づくりで子どもをつなぐ  
〜できた!わかった!  
つながった!〜

ハイブリッド講座です。

1年生 「安心」「自信」から「自

治」をめざす 吉田雅直(大阪)

2年生 学び方を積み上げる2

年説明文の学習 鈴木基久(静岡)

3年生 中学年の子どもたちの

良さをいかす学力づくりと授業

づくり 岡本美穂(大阪)

4年生 クラスのみんなと学ぶ

楽しさを 算数・社会 根無信

行(大阪)

5年生 授業で子どもや学級を

育てる 丸小野聡暢(大分)

6年生 学力づくりで学級づく

り 加藤英明(愛知)

【中学・高校】

コロナ禍で成果を

上げた学力づくり(その後)

阿久澤恵子(群馬)

家庭教育 幸せへの『扉』をた

たくし何をするのが、子ども

を支援、希望を切り開けるのか

恩庄澄(京都)

【実践報告】

しあわせな学級づくり

李詩愛(大阪)

【記念講演】

スマホはどこまで脳を壊すか

榑浩平さん(東北大学)

【会場参加申し込み】

会場参加(ドーンセンター・天満橋)

https://www.kokuchpro.com/ev

ent/534341aF7F713769e3d076

132a5d46/

【オンライン講座】

メルマガの登録

よろしくお願ひ致します。

「まぐまぐ学力研」

# 学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2024年 7月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

## 7/

- 7 (日) 神奈川学力研 10時～12時 県民サポートセンター704号室 (横浜駅西口) 湯浅 090-1104-4667  
20 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp  
26 (金) 春日井学力研 18時半～ レディヤン春日井(JR勝川駅) 山口 080-6904-1697

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等のご連絡下さい。

- みなみ学力研 9時半～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp
- いろえんぴつ (加印) 18時半～ 天満南小サークル室 岸本 090-9117-6330
- 伊丹学力研 18時半～ ※阪急武庫之荘駅近く 前田 090-9715-3830
- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはご連絡を 前田 090-9715-3830

## 《全国キャラバン等 今後の予定》

### ○ 学力研 全国フォーラム 8/4 (日)

分科会 低・中・高学年・中高家庭教育

記念講演 榊浩平氏 「スマホはどこまで脳を壊すか」 会場：ドーンセンター

実践報告 李 詩愛 「しあわせな学級づくり」

申し込み開始しました

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一 E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛 E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也 E-mail katsuya4k1h9@gmail.com

# 第65回 全国フォーラム

すべての子どもに確かで豊かな学力を

学力づくりで子どもをつなぐ ～できた、わかった、つながった～

★午前10時～12時 講座&分科会

## 低学年講座

- 「安心」「自信」から「自治」をめざす  
学力づくりと学級づくり  
吉田雅直(大阪)
- 学び方を積み上げる  
2年説明文の学習  
鈴木基久(静岡)

## 中学年講座

- 中学年の子どもたちの良さを生かす  
学力づくりと授業づくり  
岡本美穂(大阪)
- クラスのみならず学ぶ楽しさを 算数・社会科  
根無信行(大阪)

## 高学年講座

- 授業で子どもや学級を育てる  
丸小野聡暢(大分)
- 学力づくりで学級づくり  
加藤英介(愛知)

## 中学・高校 家庭教育分科会

- 幸せへの『扉』をたたく  
～何をするのが、子どもを支え、希望を切り開けるのか～  
恩庄澄(京都)
- コロナ禍で成果を上げた学力づくり ～その後～  
阿久澤恵子(群馬)

参加費  
2000円

ハイブリッドにて開催！！  
定員  
会場 オンライン  
150名 100名

★午後1時～4時 全体会

実践報告 しあわせな学級づくり 李 詩愛(大阪)

記念講演 「スマホはどこまで脳を壊すか」  
榊浩平氏(東北大)

日時 2024年8月4日(日) 午前10時～15時30分

会場 ドーンセンター 大阪市中央区大手前1-3-49  
天満橋駅1番出口東へ徒歩5分



会場参加の方



オンライン参加の方

こくちーず 「学力研 全国フォーラム」で検索

主催 学力研&家庭塾連絡会

学力研 <http://gakuryoku.info> Mail:[info21@gakuryoku.info](mailto:info21@gakuryoku.info) fax:079-425-8781